

令和2年度 東京都立瑞穂農芸高等学校(全日制課程) 学校経営報告

校長 吉野 剛文

今年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大により、多くの学校行事が中止となった。コロナ禍において心身ともに健康な民主社会の担い手の育成を目指し、全教職員による組織的取組を推進してきた。今年度の結果を検証し、次年度へ反映させ学校全体で取り組んでいく。

1 今年度の取組と自己評価		
(1) 教育活動への取組と自己評価		
各学科の教育活動		
① 大学 科共通	(ア)	授業規律を重点的に定め、教職員が共通認識をもって指導にあたるように努めた。学級担任と教科担当が連携することで、生徒一人一人の学習指導を図った。
	(イ)	各教科は、教科主任を中心に「学力スタンダード」を利用して、生徒の基礎学力の定着と伸長を図るとともに、学力の向上に取り組んだ。
	(ウ)	基礎・基本の学力を確かなものにするため、1年次には中学校段階の再学習を実施した。特に、国語・数学・英語を中心に、小テストを繰り返し補習・補講等を実施した。また、全学年にわたり全教科で、高校の学習に遅れがちな生徒に対して、補習・補講・レポート提出等を実施した。さらに複数教科は、校内寺子屋及び長期休業中に特別補習を実施した。
	(エ)	教職員は、学習指導力向上のために研究と修養に努め、授業力の質的向上に取り組んだ。そのために「教員相互の授業参観」を実施するとともに、研究授業や他校における指導教諭の授業参観を通して実力を高めた。さらに、教科担当者は、ICT機器で使用する教材開発を積極的に行った。
	(オ)	「英語」や「数学」での習熟度別授業、「体育」や「家庭」等の少人数制授業を有効に活用し、生徒の実態に即した授業を展開した。
	(カ)	特別な支援が必要な生徒対応について、教育相談委員会を開き全教員で生徒情報を共有し、指導するように努めた。
	(キ)	学校休業中の対応として、オンライン教材をホームページに掲載し、動植物の観察等を提供した。
農業科、家庭科の取組		
② 畜産 科学科	(ア) 学科における学習指導・生活指導・進路指導などの取組	(学習指導) 専門教科で丁寧なレポート添削を行い、文章力や表現力を向上につなげた。 (生活指導) すべての授業において、挨拶、遅刻、頭髪、身だしなみの指導を徹底した。 (進路指導) 学科の教職員における面接指導、小論文指導を丁寧に行い組織的な進路指導を行った。 (地域連携) 地域と連携した活動として、酒造会社や肉加工会社との連携を図り、家畜の肥育から出荷の流れを体系的に学ぶ環境を整えた。また、PTA活動として全生徒分の「カレー」を購入していただき、全生徒へ配布することができた。 (特色化) 地域や産業の発展に貢献できる課題研究を実践することができた。また高大連携による授業内容の充実と研究発表に取り組むことができた。 (資格取得) 新型コロナウイルス感染症の影響により、予定していた資格取得の試験が中止となった。
	(イ) 目標達成のための実践結果	(A) 緊急事態宣言期間以外は、生徒が飼育管理を通して責任感や人と協力し合う態度を、身に付けさせることができた。その結果、限られた時間の中で生徒が自己の役割を認識し、自信をもって活躍できる教育活動を実践することができた。 (B) 新型コロナウイルス感染症の拡大により、移動動物園、公開講座、施設公開、学校間協力、地域行事等、畜産科学科だからできる地域への貢献活動はすべて中止となった。しかし、ホームページ、ツイッターを活用して積極的に動物等の成長を発信した。 (C) 基礎的な知識・技術を確実に習得させた上で、日本学校農業クラブ活動を実践し専門教育の理解を深めた。農業クラブ活動と共に、毎日新聞社主催第48回毎日農業記録賞高校生部門で優良賞を受賞した。また、全国農業協同中央会養豚類型瑞穂農芸ブランド「豚肉プロジェクト」にて、第4回全国高校生農業アクション大賞に3年間認定された。 (D) 技能スタンダードの実施に基づき、在学中に日本農業技術検定を全員受験させ、3級95名、2級6名が合格し、専門家でも難関である1級に1名合格した。さらに、アグリマイスター顕彰制度の取得にシルバーが6名、ゴールドが2名、プラチナが1名申請した。
(ウ) 園芸 科学科	(ア) 学科における学習指導・生活指導・進路指導などの取組	(学習指導) 学校休業中は、オンライン教材を駆使しながら植物の成長やその時期にしか観察することができない内容を、写真と共に分かりやすく掲載した。その結果、園芸に関連する専門的知識を伝えることができた。また、学校再開後は、すぐに実習を行い技術面での学習を多く取り入れた。 (生活指導) すべての授業で、挨拶、遅刻、頭髪、身だしなみの指導を徹底した。また、食料や生活を育む植物を扱う者として自他の生命を尊重し、自然に感謝と愛する豊かな心の育成につなげることができた。 (進路指導) 専門教育やインターンシップを通して、自己の在り方や生き方を考えさせ望ましい勤労観と職業観を育てた。また、学科の教職員における面接指導及び小論文指導を丁寧に行い、組織的な進路指導を実施した。
	(イ) 目標達成のための実践結果	

	(地域連携) 新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、昨年度までの思うような地域連携ができなかった。 (特色化) ブルーベリー栽培・育種を通して学科の特色化を図り、積極的に地域農業生産活動に貢献した。 (資格取得) 授業・レポートの指導等を通して基礎学力を徹底的に身に付けさせた。
	(イ) 目標達成のための実践結果 (A) 基礎学力向上を目標として、各教科で文章を書き計算をする授業を工夫し展開した。また、実験や実習を重んじ、科学的な思考や倫理観を高めることを目指した。特にレポート採点指導を強化することにより、論理的な文章が書けるように指導を行った。 (B) 座学や実習等を通して、自然と人間生活の関わりを深く理解する機会を積極的に設け、農場及び実験・実習施設の清掃指導を徹底し、清潔で安らぎのある学習環境と生活環境を整えた。 (C) 専門分野に関連する産業現場の見学、実習、上級学校等は中止となったが、講師を招いての講習会を実施し、時代の最先端に行く新しい知識や技術を習得させる機会をもった。その結果、生徒の進路意識を高め進路実現に向けた取り組みができた。 (D) 学科の特色を生かした「箱根ヶ崎駅花壇の装飾」をとおして、奉仕の心の育成と社会に尽くす態度を育むことができた。しかし、小中学校との交流及び地域行事におけるボランティアは中止となった。 (E) 科目果樹以外の総合実習等の授業においても積極的にブルーベリーを教材として扱った。しかし、昨年度まで実施していた繁殖・無料苗の配布などの活動は中止となった。 (F) 秋の農業技術検定試験を園芸科学科の生徒全員に受検させる機会を設け、希望する生徒には情報処理に関する検定や重機講習を受ける機会が中止となった。
	(ア) 学科における学習指導・生活指導・進路指導などの取組 (学習指導) 座学では意義や役割と理論を学び、実習では総合的な体験及び検証を行い食品に関する基礎的・基本的知識と技術を習得の向上につなげた。学校休業中は、オンライン教材を駆使しながら製造実習の手順やボイラーの管理の様子などの写真と共に説明文を掲載した。 (生活指導) 豊かな人間性育成のため、実験実習を通して基本的な生活習慣の確立を図った。また、すべての授業において、挨拶、遅刻、頭髪、身だしなみの指導を徹底した。 (進路指導) 学科の教職員における面接指導、小論文指導を丁寧に行い組織的な進路指導を実施した。 (地域連携) 新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、昨年度までの思うような地域連携ができなかった。しかし、PTA活動として全生徒分の「味噌」と「七色とうがらし」を購入していただき、全生徒へ配布することができた。 (特色化) 多岐にわたる製造項目を実習授業において学習し、専門性を生かした地域の特産品の開発に取り組み、専門教育の向上と充実を図った。 (資格取得) 将来役に立つ食品に関する資格取得を目的とした授業をカリキュラムに取り入れ、受験者の8割が合格できるよう指導を行う。
(エ) 食品科	(イ) 目標達成のための実践結果 (A) 実験実習を通して専門的知識と先端技術への理解を深めさせた。学習では、内容を常に記録と整理を行い、活用する習慣を身に付けさせた。また、レポート等の提出期限を守るよう指導の徹底を図った。 (B) 実験・実習の授業を通して、安全に配慮し、協力と責任を重んずる態度とそれを実践する力を養った。また、生活規律の指導として欠席、遅刻、早退、忘れ物等の指導を徹底した。特に、食品衛生に留意し、服装、頭髪、化粧、爪、装飾品、手洗いなどの管理を徹底した。 (C) 制限のある中で、地域の社会人講師を積極的に活用し、実践的な学習活動を実施した。ものづくりマイスターによる製パン実習は実施することができ、食品のスペシャリストとしての職業観を養うことができた。今年は、地域の特産品の手もみ製茶実習、上級学校講師による和菓子及び高度な洋菓子製造実習、校外学習（企業見学、上級学校見学）の実施は中止となった。 (D) 瑞穂町の行事や80周年式典等に参加し、実習生産品の販売やプロジェクト発表を通して積極的に活動した。瑞穂町より、町政発展のために多大な貢献をしたとして表彰された。地域を対象とした公開講座は中止となった。 (E) 食生活アドバイザー検定3級・P検3級・危険物取扱者乙4種のうち1つを受検させた。また、技能スタンダードに基づき、在学中に1回は農業技術検定3級を受検させた。
	(ア) 学科における学習指導・生活指導・進路指導などの取組 (学習指導) 生活に関する基礎的な知識・技術を実験・講義・実習を通して幅広く身に付けさせた。進路実現に必要な学力を育成する。 (生活指導) すべての授業において、挨拶、遅刻、頭髪、身だしなみの指導を徹底した。特に、専科の授業では点呼時において持ち物、服装点検等を徹底した。その取り組みにより、社会ルールやモラルについて理解を深めるとともに、他者への思いやりの気持ちを育んだ。 (進路指導) 学科の教職員における面接指導、小論文指導を丁寧に行い組織的な進路指導を実施した。 (地域連携) 新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、昨年度までの思うような地域連携ができなかった。 (特色化) 中学生の受験希望者を増加させるような募集対策として生徒による学科紹介DVDを作成した。 (資格取得) 将来役に立つ家庭生活や福祉に関する資格取得を目的とした授業を、カリキュラムに取り入れ指導を行った。
(オ) 生活デザイン科	(イ) 目標達成のための実践結果

	(A) 放課後の補習や長期休業中の実習等・反復指導を行い、生徒一人一人の学習状況に対応した指導を実施して生徒の学力向上の定着を図った。 (B) 実習室の整理、清掃を徹底し、学習環境の整備を行った。 (C) 積極的に実験・実習に取り組み、実習後のレポート提出や発表を行うことにより表現力を身に付けさせた。 (D) 規範意識の向上として、挨拶の励行、高校生として相応しい身だしなみ指導を徹底した。また、その場に応じた言葉づかいができるように日頃から指導を繰り返した。 (E) 進学希望者（推薦やＡＯ入試）に対する面接対策指導、作文・論文対策指導などを組織的に実施した。 (F) 実施可能な各種検定に挑戦させるための指導を行った。 ・家庭科技術検定（被服製作・食物調理・保育）４級は、卒業までに全員に受験させた。 ・類型選択者には、３級を受験させた。 ・ビジネス文書実務検定は、１学年全員に受験させた。（４級～２級） ・保育福祉類型選択者３学年は、手話検定５級を受験させた。 (G) ボランティア活動に取り組ませた。 ・保育福祉類型選択者による地域の高齢者福祉施設、保育園などとの交流を最小限に実施した。 ・服飾デザイン類型３年、保育福祉類型３年による「シルバーまちかど」は中止となった。	
2 今年度の取組について		
(1) 教育活動の具体的内容と結果		
① 学 習 指 導	(ア) 学力・技能スタンダード	
	学力	学力向上は、学校全体の取り組みとして、「学力スタンダード」に基づき、各教科にて実施した。５教科の学力スタンダード実施科目では、１学期末は、自校作成問題、学年末は、標準問題に即した問題で実施した。目標最低点に達しない生徒に対しては、補習や補講、課題を繰り返した結果、全員が求める学力を身に付けたことを確認した。
	技能	農業・家庭の専門教科については、「技能スタンダード」に基づき学科を中心に各教科の中で、知識・技能の習得を図り資格取得に力を入れた。
	改善	生徒による授業評価アンケートの結果を生かして、分かりやすい授業をするための工夫行うなど、各学科間において学力及び専門科目に関する知識や技術の向上に向けた検討を行った。
	(イ) アクティブラーニング	
	アクティブラーニング推進校３年目として、推進員が中心に『対話的学びを通じて「わかる」から「できる」』授業を目指して取り組んだ。全教員が、アクティブラーニング型の授業を実践した。先進校１校に視察し、また、研修会を１回と報告会２回を実施し、研修成果を冊子にまとめ配布をした。	
	(ウ) 言語能力の充実	
	今年度も、言語能力の充実に向け、各教科で授業を通じて、また、授業以外の活動においても取り組んだ。文章を書かせる取り組みについては、コンクール出品等を機会として継続した。	
	専門科目においても「課題研究」発表会等を通じて、他者に分かりやすいプレゼンテーションの作り方と発表方法について、身に付けさせることができた。また、今年度は、瑞穂中学校の２年生を招く、瑞穂町スカイホールでの代表者による学習成果発表会は中止となった。	
	(エ) 基礎学力の充実	
	夏季休業中には、国語・数学・英語・理科において特別講座を実施した。夏季特別講座については、延べ６１名の生徒が参加した。特に、進路指導では小論文指導を土曜日に複数回実施した。	
	各専門学科では、実習レポートにおいて記述部分のきめ細かな指導とともに、定期考査においても文章記述問題を出题する等の工夫を加え学力向上に取り組んだ。また学力スタンダード科目である「農業と環境」においては、昨年に引き続き、各科で話し合い、特定の単元については共通した内容を教えることとし、共通問題で実施した。	
	家庭学習の習慣を付ける取り組みも学年担任団に任せになり、行っている学年もあれば、まったく行わない学年もあったため、次年度以降は、全校で組織的な取り組みを実施する。	
	(オ) 資格取得の奨励	
	従来の漢字検定、英語検定、パソコン検定に加え、専門分野のＦＦＪ検定、農業技術検定、危険物取扱者、小型車両系建設機械、家畜商、食生活アドバイザー、手話検定、食物調理技術検定、被服製作技術検定、保育技術検定など、専門分野に係る資格試験を学年別の全員受検・参加や希望者受検で行い、今年度は延べ４３９名（昨年723名、一昨年675名）が合格した。	
	(カ) G A P、H A C C Pなどの認証制度への取組	
	専門教科では、オリンピック・パラリンピックに向けて、G A P、H A C C Pなどの認証制度に関する教育を推進するために、校内研修会を２学期に実施した。	
	(キ)授業外の学習（補習・講習、プロジェクト・家庭学習）	
	アグリマイスター顕彰制度や農業技術検定、家庭科技術検定などの資格取得を目指して、授業や放課後に指導を実施した。（※日本農業技術検定１級合格）	
	② 生 活 指	今年度は、遅刻と頭髪・服装指導、授業規律を重点指導項目として取り組み、全教員の共通理解の下、年間を通して継続的にを行い、よい結果に結びついている。しかし、登下校のマナーや身だしなみなど、今後も取り組むべき課題がある。
(ア) 頭髪指導		

導	頭髮については、大多数の生徒が守ることができている。休業期間中に、若干の生徒が染髪をしてしまう現状がある。学年、学科、生活指導部と連携して改善指導をしているが、黒染めが落ちるたびに指導することから一定期間の指導を要している。また、学年進行ごとに染色する生徒が多くなる傾向がある。
	(イ) 遅刻指導
	月5回の遅刻を基準とした生活指導部による集団指導と学年を中心とした個別指導により、遅刻指導を徹底した。生活指導部による遅刻指導生徒は、今年度は17名(R1-13名)であった。年間30回以上の「遅刻常習者」は、4名で(R1-7名、H30-10名、H29-5名)1日1クラスあたりの遅刻者数は、0.40人(R1-名-0.71人、H30-0.62人、H29-0.60人)で昨年より減少であった。 瑞穂町の教育施策である挨拶運動と連動させるとともに、朝の登校指導と合わせて生徒も教職員も挨拶をしっかり行うことを通じて明るい学校づくりに努めた。
	(ウ) 服装指導
	毎学期ごとに服装指導を行ってきたが、注意されたその場ではスカート丈を伸ばしたり、ブレザーを着たりと直す、すぐに元どおりにしてしまうことが多い。特にスカート丈については授業開始時にチェックするなど教員全員での取り組みに従い改善した。少しずつ改善されているが、授業が終わった途端、あるいは校門を出た途端元に戻す生徒もおり継続的な指導を必要とする。 身だしなみの指導の一環として、今年度の一年生より指定セーターの導入をした。さらに、夏服期間における、学校指定のボロシャツを導入した。色は2色(白、紺の学校マーク刺繍)である。
	(エ) 授業規律
	改めて「授業心得」を各教室掲示し、受講姿勢・態度について明文化し指導に取り組み、違反者には特別指導を入れたことにより改善された。また、昨年度に引き続き、今年度も生活指導統一基準に基づき「チャイムと同時に授業開始」を徹底した。殆どの生徒は授業前に教科書等の準備を行い、チャイムスタートの定着が図られている。
	(オ) 自他の生命・人権尊重の精神(他者を尊重し、思いやりの心を大切にする)に向けた指導
	薬物乱用防止教室やセーフティ教室を通して、自他の生命や人権を尊重する指導を推進し、年間3回の生活実態調査を実施した。いじめ対策として、年3回のアンケート調査を行い生徒把握に努めた。6月に1学年は、いじめ未然防止学習会を実施した。また、スクールカウンセラーを活用し早期発見に努め、生徒の悩みに対応することで、いじめ防止を図った。 安全教育、特に交通安全教育を充実させ、登下校時のマナーと自転車事故防止の徹底を図った。毎週水曜日の4限目に、スクールカウンセラーを活用した教育相談委員会を活性化させ、特別支援教育の必要な生徒の情報を教員間で共有して指導に役立てた。また、特別支援委員会等を活用し生徒の支援を充実させ、いじめ防止の取り組みや自殺防止対策に資する教育の推進を図った
	新型コロナウイルス感染症により景気が低迷し、求人数も減少傾向となった。就職を希望する生徒29名全員が縁故・公務員を含め内定をした。また、専門科目を生かした就職が約41%で近年にない高い割合を示し、本校の教育活動の成果が見られた。
③ 進 路 指 導	(ア) 進学(大学、短大、専門学校)
	大学・短大進学者は昨年度の42名から53名に増加した。専門学校進学者は昨年度の64名から68名となり進学者数が15名増加し127名となり卒業生全体の74.3%となった。農業系大学校進学者は、昨年度9名から6名に減少した。大学進学者の内訳は、東京農業大学(6名)、酪農学園大学(2名)、日本獣医生命科学大学(3名)、麻布大学(1名)などこれまで進学が難しかった大学等も含まれている。短期大学では、保育・児童教育系、栄養製菓系に進学をしている。これは、1年次からの意識付けと学年、進路部、学科が連携して指導に当たった成果といえる。今後は、進学希望者の増加に対応した取り組みとして、基礎学力向上のための講習や資格取得、専門教科学習の充実と併せて、3年間を見通した進路プランに従って、キャリア教育の充実を図っていく必要がある。
	(イ) 就職
	3年就職希望者に対しては、進路指導部が中心となって、面接指導や礼節指導等を行った。また、挨拶や敬語、きちんとした身だしなみの習慣を身に付けさせるため、全校で挨拶や身だしなみ指導に取り組んだ。 ここ数年の求人数増加により、就職は1回目の採用試験で合格した生徒が81.5%、昨年の76.7%を上回った。要因として、難関といわれる企業を受ける生徒が少なかったと考えられる。面接のみの採用試験を選ぶ傾向が強い。就職後の充実した生活を考える意味でも、挑戦する気持ちをもって採用試験に臨む実力を養成したい。また、採用試験の担当者から「会社を受ける意欲が感じられなかった」という言葉をいただくケースがあった。事前の企業研究に力を入れる必要がある。
	(ウ) 3年間を見通した計画的なキャリア教育
	10月に3年間を見通した進路指導のロードマップを完成させ、次年度に向けた組織的・計画的な進路指導の計画を決定した。また、あらゆる教育活動においてキャリア教育を推進し、自己の在り方生き方を考えさせ、望ましい勤労観・職業観を育み主体的な進路選択を行える生徒の育成に役立てた。今後も進路指導部と学年が連携を図り、すべての生徒の希望する進路の実現を目指す。
	(エ) その他
	本年度は、就職、進学ともに難関と言われる分野に挑戦する生徒が減少した。進学受験、就職採用試験に臨むにあたり、十分な意欲と実力を養成することができなかったと思われる。それぞれに自信を付けさせるためには、入学時より計画的な進路指導の徹底を図り、進路希望の実現に向けて意識を醸成させる必要がある。

	(オ) 点検機能の充実 組織的な点検機能（学年⇒進路指導部⇒管理職）を充実させ、進路に関する関係書類等の転記ミスをゼロとすることができた。
④ 特別活動・部活動	(ア) 農業クラブ、家庭クラブの活動 農業クラブや家庭クラブの活動等への積極的な参加を通して、学習活動に意欲をもたせた。特に地域に密着した「箱根ヶ崎駅の草花装飾」は実施することができたが、他の「移動動物園」「シルバーまちかどでの交流会・生産品販売」「みずほマルシェ」は中止となった。 特に農業クラブ活動においては、プロジェクト発表の分野Ⅲ類「ヒューマンサービス」で6年連続東京都大会「最優秀賞」を受賞した。「図書館で調べる学習コンクール（高校生部門）」においては優良賞（全国5位）受賞という好成績を収めた。来年度以降も積極的に取り組み、諸活動をさらに活発にしていく必要がある。 (イ) 小笠原体験活動 新型コロナウイルス感染症の影響により、第3回小笠原体験活動は中止とした。次年度は、社会情勢を見ながら判断する。 (ウ) 部活動の充実、競技力の向上 生徒昇降口に部活動掲示板を新設した。大会情報を積極的に伝えることにより、達成感と成就感の感じられる活動につなげた。その都度、ホームページやツイッターを活用して部活動の様子を掲載した。情報発信に努めた結果、今年度は高い募集倍率につなげることができた。
⑤ 募集・広報	(ア) 日常の情報発信・学校ホームページ、ツイッターの活用 募集活動は、夏季休業中に2回学校見学会を行い、9月以降は個別相談会を含め4回ほど実施した。毎年実施している11月の立川高校を会場とした都立高校合同説明会は中止だったが、ユーチューブでの動画発信、ホームページとツイッターによる動物（家畜、小動物、植物等）の成長記録を積極的な掲載に努めた。学校ホームページの更新回数は、210回であり昨年度更新回数と比較すると74回多かった。また、新設したツイッターの総計数は、227ツイートであった。 (イ) 学校パンフレットの全面リニューアル・横断幕の作成 6月に、全学科・全項目の写真及び内容等を見直して完成させた。また、横断幕を作成して生徒の帰属意識を醸成するとともに、活力ある学校としての情報発信に努めた。 (ウ) 美化活動、掲示活動を充実 新型コロナウイルス感染症の影響により昨年度までの活動はできなかったが、美化委員会を機能させ放送による呼びかけ及びポスターによる環境意識の改善を図った。その結果、学習環境の整備や保全を心がけた美化活動を通して生徒の豊かな心を涵養した。
⑥ 健康促進	(ア) 新たな日常における感染症対策 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として、個々によるTeamsを活用した毎日の健康状況の入力と確認を強化した。週休日以外は、教職員による組織的な立ち番を実施し、教室に入る前の健康チェック（健康観察票を確認、サーモグラフィなどを使った検温）に対応した。消毒対応では、よく手を触れる場所（机の天板、椅子の背もたれ、ドアノブ、スイッチ、手すり）などを1日1回以上消毒した。また、十分な換気の実施（教室ドアの開放、30分に一度は窓も開放）、校内放送などで注意喚起（休み時間の後や、食事前の手洗い、定期的な換気の呼びかけ）を積極的に行い、生徒が安心して登校できるように心がけた。 (イ) 合理的配慮の把握と支援方法の工夫 特別支援委員会（スクールカウンセラー含む）を通じて支援を必要とする生徒の情報を共有し、生徒が安心して学校生活を過ごせるよう毎週委員会を開催した。特に、発達障害に係わる内容だけではなく、児童虐待等の疑われる生徒の対応を子供家庭支援センター等と連携をして効果をあげた。また、保健部が中心となり行内研修及び専門医派遣事業を活用して事例研究会を実施した。特に、指導上共通理解が必要な対応方法について、専門医より医療的な観点からの助言をいただいた。スクールカウンセラーを積極的に活用することで、多様な生徒の「心と体」の悩みに対して迅速に対応し、校内の教育相談体制を活性化した。 (ウ) 保健だよりからの情報発信 カウンセラーとの連携をより一層緊密にすることで、生徒へのきめ細かな対応を心がけた。さらに、「ほけんだより」を全生徒に概ね毎月配布して、健康推進に努めた。 (エ) いじめの未然防止指導 学校は、いじめや体罰を許さないというスタンスを徹底し、いじめアンケートを7月と12月、3月の3回実施し、ある、という項目に○を付けた生徒からは担任や生活指導部、管理職が丁寧に話を聞いた。また、必要に応じていじめ対策委員会の準備を整えた。 (オ) 清掃用具等の整備、清掃指導、美化活動 基本的に教室のゴミ箱は設置せず、各自で持ち帰る指導を行った。2学期からの清掃は快適な学習環境を維持するために、ゴミ分別やゴミ捨て以外を実施した。特に、清掃用具等の使用は必ず一人一つと限定させ、感染症対策ガイドラインを遵守した。
⑦	(ア) OJT・OffJT、自己研鑽、PTA・同窓会との連携強化

学 校 経 営	学校は情報発信を積極的に行い、PTAや同窓会と緊密に連携することにより教育活動をより一層充実させた。また、学校運営連絡協議会が実施する学校評価アンケート及び生徒の授業評価アンケート、さらに保護者意見の結果から分析や検討を継続的に行い、意見や提言を真摯に受け止め学校経営に反映させた。
	(イ) 経営企画室・教員の連携、計画・効率的な予算執行、施設・設備の点検・共有化と整備・改修
	企画調整会議を基盤に据え、経営課題の解決と経営方針の徹底を図ることで迅速かつ組織的な対応力を高めた。また、各分掌はPDCA一覧表を作成して、学校経営計画の実現を図るための進行管理に活用した。
	(ウ) 新教育課程の検討から完成に向けて
	教育課程委員会にて会議を重ね、グランドデザインに対応した新教育課程を構築した。
	(エ) 計画・継続的研修、教職員のコンプライアンス意識の醸成、組織的 point 点検の実施
	月初めのクリーンデスクに努め、保有個人情報の管理徹底を図った。そのために、机の施錠と使用する施設等の施錠を徹底した。また、個人情報を含む資料については、担当者ごとに確認を行ったうえで書類等を手渡した。 入学者選抜業務については、採点基準を明確に定め、採点においては複数による複数回の点検を順守した。また、西部学校経営支援センターと緊密に連携に行い、情報を共有化して学校経営の適正化と効率化を推進し、経営基盤を強化した。 服務事故0を目指し、研修を2回実施するとともに教職員一人一人は意識向上に努めた。
⑧ 地 域 貢 献 活 動	(ア) 地域貢献の充実
	教科「人間と社会」や各学科の専門科目を通して、地域貢献活動を実践した。加えて、女性有志生徒による活動が評価され、東京都女性推進活躍大賞〔地域部門〕優秀賞を受賞した。新型コロナウイルス感染症が落ち着けば、瑞穂町〔産業まつり、子どもフェスティバル、駅伝、青少年の主張、赤い羽根共同募金、ポケットパークへの草花植栽、図書館活動、村山大島紬伝承活動〕、保育園実習、高齢者施設実習、JR箱根ヶ崎駅の草花装飾をはじめ、地域の幼稚園・保育園等でのミニ動物園等の地域連携が取り組める。
	(イ) 校内プロジェクトの充実
	食品科プロジェクトチームの5年間に渡る「瑞穂町の産業振興に貢献する研究活動」が認められ、11月の瑞穂町制80周年記念式典にて表彰された。
	(ウ) コンクールへの取組
	教科に関連した各種競技会やコンクール等への参加を推進し、達成感・成就感を与え、学習意欲を高めさせた。
	① 東京都産業教育振興会作文コンクール 最優秀賞1名 佳作2名 ② 毎日農業記録賞 優良賞1名 ③ 日本学校農業クラブ連盟 ・プロジェクト発表東京都大会 最優秀賞 食品科プロジェクトチーム ・意見発表東京都大会 最優秀賞 畜産科学科生徒 1名 ・フラワーアレンジメントコンテスト 最優秀賞・優秀賞 園芸科学科生徒 3名 ④ 全国農業協同組合中央会 養豚開発プロジェクト・全国高校生農業アクション大賞 ⑤ 瑞穂町80周年記念式典 地域コミュニティの維持・向上に取り組む活動 表彰 ⑥ 第36回瑞穂町青少年の主張 最優秀賞1名、佳作3名 ⑦ 瑞穂町図書館で調べる学習コンクール（高校生部門） 最優秀賞1名 優秀賞2名 佳作1名 ⑧ 図書館で調べる学習コンクール全国大会（高校生部門） 優良賞（全国5位）1名

(2)数値目標と結果							
①過去5年間の数値結果							
項目		目標内容	H28	H29	H30	R1	R2
学習活動	ア	生徒の授業満足度を向上する	66.6%	69.9%	70.5%	71.8%	83.0%
	イ	原級留置者を各学年ともに低減維持する	0.4%	0.2%	0.39%	0.02%	0.0%
	ウ	各種資格・検定合格者	694名	675名	723名	672名	455名
生活指導	エ	1日1クラスあたりの遅刻者数	0.87人	0.60人	0.62人	0.71人	0.40人
	オ	年間の遅刻30回以上の生徒の減少	17人	5人	10人	7人	4人
	カ	中途退学率を低減維持する	1.7%	0.19%	0.38%	0.76%	0.38%
進路指導	ケ	生徒の進路指導満足度	66%	72%	70%	67.9	75%
	コ	卒業時の進路未決定者の低減を図る アルバイト・進学準備・その他	9.3%	4.2%	7.1%	6.8%	4%
原級留置者数	サ	原級留置者数	2	1	2	1	0
中途退学者数	シ	中途退学者数	9	1	2	4	2
募集活動	ス	生徒・教員による中学校・塾等訪問数	80校	180校	180校	170校	0校
	セ	学校説明会、体験入学の参加者数 (生徒数)	692人	941人	913人	867人	496人
	ソ	ホームページの訪問件数(件) ツイッターのツイート数(件)	75,478	100,640	93,421	94,712	178,553 227
	ナ	各学科の第一次募集平均倍率	1.09倍	1.41倍	1.23倍	1.05倍	1.3倍

教育活動の充実	ニ	生徒の学校満足度（％）	72%	82%	77%	74.5%	77.9%
	ヌ	各種校内研修を実施回数（回）	12回	12回	12回	12回	13回
	ネ	農産物産品の売上額の向上（万円）	978	1,120	1,386	1,616	1,570

② 業生の進路状況																
区 分		H28 年度			H29 年度			H30 年度			R1 年度			R2 年度		
		男子	女子	計	男子	女子	計	男子	女子	計	男子	女子	計	男子	女子	計
進 学	大 学	9	14	23	9	21	30	8	14	22	10	24	34	14	29	43
	短 大	0	7	7	0	10	10	0	10	10	0	8	8	0	11	11
	専門学校	17	55	72	8	44	52	9	56	65	3	52	55	10	58	68
	大学校	7	6	13	8	5	13	6	5	11	6	3	9	2	4	6
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
就 職	学校幹旋	10	26	36	7	41	48	7	37	44	11	27	38	8	19	27
	縁 故	0	3	3	0	1	1	1	1	2	2	2	4	2	3	5
	公務員	1	0	1	0	4	4	1	0	1	0	1	1	0	0	0
	自営・家事	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
	アルバイト	1	9	10	0	7	7	2	8	10	1	0	1	0	6	6
未 定	進学準備	2	2	4	0	0	0	0	2	2	3	3	6	1	1	2
	就職準備	1	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	4	0	3	3
合 計		48	123	171	33	130	165	34	133	167	38	122	160	36	135	172

③入学選抜											
受検形態	学科	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2	R3
推薦入試倍率	園芸科学科	3.5	3.4	1.7	1.6	1.8	1.4	3.2	3.1	1.8	2.90
	畜産科学科	3.3	4.3	5.8	3.7	4.8	3.0	4.0	3.7	3.5	4.00
	食品科	3.7	3.2	3.4	2.7	2.5	1.8	3.1	2.4	2.0	2.80
	生活デザイン科	3.9	2.6	3.4	3.0	2.1	2.50	2.57	2.43	2.24	2.14
学力選抜倍率	園芸科学科	1.72	1.60	1.32	1.00	1.04	0.72	1.48	1.32	0.96	1.28
	畜産科学科	1.12	1.84	2.24	1.44	2.04	1.16	1.88	1.68	1.32	1.48
	食品科	1.84	1.60	1.12	1.36	0.96	1.08	1.36	1.20	0.96	1.29
	生活デザイン科	1.59	1.08	1.61	1.33	1.04	1.39	1.16	0.98	1.02	1.00

3 次年度以降への課題と対応策			
	重点項目	成果と課題	改善策
(1)	コロナ対策	【成果】 自宅における検温と毎日の健康観察入力（Teams）が定着した。 【課題】 毎日の消毒作業の実施。	校内において、感染症対策基本行動3か条（3つの密を徹底的に回避、正しいタイミングと正しい方法での手洗い、席エチケット）を徹底することで、校外（特に家庭内）での行動にも変容を促す。新ガイドラインの通知により、柔軟に対応する。
(2)	本校最大の使命 生活規律	【成果】 基礎・基本の定着と中途退学者の減少のために、その基盤となるきめ細かな生活指導の充実を図った。 【課題】 基本的な生活習慣の確立を徹底。通信機器等活用マナーの課題。組織的・段階的な遅刻指導の実施。	①教員巡回、正門立ち番の継続。 ②段階的な遅刻指導の実施。 ③生活指導部による頭髪指導及び装身具確認指導の徹底。 ④自転車安全指導の充実。 ⑤制服等着用指導の徹底。 ⑥全校集会時の事前指導及び事後指導 ⑦組織的な校外巡回の実施など、組織的に実施する。 ⑧チャイム着席と授業時のスマートフォン使用禁止の徹底。（※活用する場合もある）
(3)	基礎学力の向上	【成果】 各教科は、教科会や教科主任会議を中心とした基礎学力向上の取組を実施した。 【課題】 各教科統一の授業規律指導の徹底。家庭学習の時間確保。	①各教科は、生徒実態調査の分析により、家庭学習時間確保に向けた課題を工夫する。また、学年や分掌での中途退学者の抑止を、今後とも組織的に体制を整え継続して実現する。 ②小テストや宿題を定着させ、評価に加える。

(4)	指定校等の取組	【成果】①学力向上推進校（校内寺子屋）として、進路指導部は各教科と連携を図り、1・2学年を対象として外部講師による教科指導を実施した。 【課題】校内寺子屋では、事前・事後指導の工夫改善。予算面の管理。	①校内寺子屋では、基礎力診断テストを参考にするとともに、国語・数学・英語の教科担当との教科会をもち、学力向上に向けた情報共有と校内体制の構築を図る。 ②校内寺子屋対象者の生徒の学力結果について、進路指導部が中心となり分析に努める。
(5)	進路指導の充実	【成果】10月に3年間を見通した進路指導のロードマップを完成させ、次年度に向けた組織的・計画的な進路指導の計画を決定した。 【課題】出口指導の強化が必要である。コロナ禍における計画的な面接指導の在り方を検討。	①前倒しの面接指導（5月から実施）、小論文指導（国語科との連携）。 ②月間進路だよりの発行（HPへの掲載）。 ③キャリア教育に向けた情報の一元化集約（各科の資格指導実施及び取得状況、インターシップ状況等）。 ④学力向上「寺子屋等」の対応と分析。 ⑤卒業生の追跡調査（学校ホームページへのコメント依頼等）。 ⑥母校訪問の調整と生徒指導対応。 ⑦全学年会への参加（ホームルール年間指導計画の運営連携）。 ⑧推薦を活用する生徒の指導と保護者理解。
(6)	防災教育の充実	【成果】各実習棟単位で避難訓練を実施 【課題】自然災害への危機意識の醸成に向けた訓練の在り方について工夫する。コロナ禍における救命講習の実施。	①防災教育のさらなる充実を図り、地域連携の強化と避難所を想定した生徒主体の訓練を行うなど、地域の特性を生かしながら本校独自の取組を実践する。 ②2学年は救命講習を受講する。そのために、事前指導を意図的・計画的に実施する。
(7)	安心できる安全な学校	【成果】職員の朝会にて生徒の情報共有を図った。1学年は、オリエンテーションの中で、いじめに関する指導を行った。毎週、学年生活連絡会を実施した。教職員は、体罰の根絶を目指した研修会等を各学期実施した。 【課題】情報共有の活用と連携。いじめや暴力のない学校づくりとしての未然防止教育。	①企画調整会議、朝会等を活用し、積極的な情報共有を継続する。各学期に体罰の根絶を目指した研修会等を実施する。 ②いじめ防止対策委員会を機能させ、いじめアンケートや教育相談委員会への生徒情報を基に、いじめのない学校づくりを推進する。
(8)	専門分野の知識技術等向上	【成果】技能スタンダードの取組を通して、身に付けるべき専門分野に関する技術・技能・こころの具体的な内容をさらに明確にし、組織的な取組を継続している。「農業技術検定」を受験。1級1名、2級6名、3級が95名）が合格した。 【課題】各種検定に向けた知識技術の向上。	①「技能スタンダード」の到達目標を年度当初に確認する。 ②授業では、生徒が技術・技能面での到達度について確認する。到達していない場合は、繰り返し指導する。 ③次年度も「農業技術検定」を受験予定。
(9)	部活動加入率の向上	【成果】部活動加入率を向上させるために、5月に生活指導部による一斉部活紹介を実施した。部活動掲示板を生徒昇降口付近に新設した。ツイッター、ホームページ等からの情報発信に努めた。 【課題】部活動加入率74%、部活動の情報発信。	①1年のオリエンテーションにて、PTA広報を配布して部活動紹介を行う。4月に生活指導部による一斉部活紹介を実施する。 ②部活動掲示板を継続的に更新する。 ③生徒小掲示板の活用とホームページ、ツイッター等からの情報発信に努める。
(10)	特別支援教育の充実	【成果】各学期に特別支援教育推進検討委員会にて生徒の情報共有を図った。 【課題】教員校内研修と中学校との連携。特別支援教育推進だよりの発行。	①各教科からの情報共有と年度当初に得た情報を集約し、全教員で共有する。②必要に応じて「学校生活支援シート」を作成し生徒指導に役立てる。③「特別支援教育推進だよりの発行を継続させ、情報発進に努める。

(11)	人材育成	【成果】若手教員校内OJT計画を継続し、授業改善等についての研究会を実施した。 【課題】実施時期の工夫。学校の諸課題をテーマに主幹教諭及び主任教諭を中心としたグループによる人材育成。	①OJTの実施体制については、これまでの反省をもとに、今後も実践的かつ実効的な内容に改善し、教職員が一丸となって目標達成に向けて取り組む姿勢を継続する。②教員相互の授業参観の実施。アクティブラーニングの視点をもった授業の展開。
(12)	募集活動の活性化	【成果】コロナ禍における全教職員体制での募集活動（説明等）を実施した。オンライン、自動申請の設定。目標倍率に届いた。 【課題】全受検生に対しての説明ができなかった。（各学科、個別対応）	①中学校訪問時期の改善と訪問数の設定を行い実施する（3校を目標とする）。各科の説明を丁寧に行う。②個々の活動をホームページに掲載して情報発信に努める。③大学科ごとに3回以上の体験入学を実施する。